

5歳児 実践事例

(7月)

観点 (興味・関心)

視点 (表現 ~つたえたいな しりたいな~)

活動名 (内容) しずくちゃん 見~つけた!! ~絵本「しずくのぼうけん」を通して~
ねらい 自分の思いを伝え、イメージを膨らませながら、友だちと遊ぶことを楽しむ。

【○幼児の活動

★環境の構成

■教師の援助

★子どもたちが選んだ絵本の中から「しずくのぼうけん」を読み聞かせる。

○「しずくのぼうけん」の絵本を見る。

- ・しずくが次々とぼうけんしていく様子に関心を持ってじっと見ている。
- ・しずくが次はどこにぼうけんに行くのかを覚えていて、絵本のページをめくろうとすると、「次は~だて。」と楽しみにしながら聞く。



★絵本の世界を体験できるようなプール遊びを設定する。

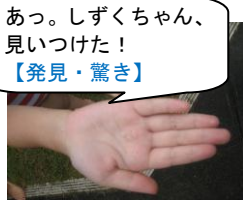
○プールの中でみんなが同じ方向にぐるぐる回って遊ぶ。

- 「うわあ、洗濯機みたい。」【想像】【感動】
- 「しずくちゃんみた~い。」【発見】
- 「しずくちゃん、目がまわらないのかな。」【疑問】【不思議】
- ・子どもたちもしずくちゃんになりきってぐるぐる回ったりしずんだりするなど楽しんでいる。



○プールからあがり、シャワーを浴びる。

- ・体についた水滴を見ながら「しずくちゃん、タオルで拭いたらおらんようになった。」【発見】
- 「どこかへいっちゃったな。」【心配】
- 「ぼうけんしにいってんかな。」【想像】
- 給食を食べていると空が暗くなり、雷が遠くでなっている。
- ・今にも雨が降りそうな空を見上げている子どもたち「雨が降りそう。」【気付き】「黒い雲がいっぱいだて。」【気付き】
- 「しずくちゃんが雲から落ちてくるかも。」【想像】
- 「プールで一緒に遊びたいな。」【願望】



■一人ひとりが「しずく」に思いを寄せながら、絵本を見ていけるよう、子どもの表情を見て、反応を確かめながら話を進めていく。

■話の終わりに「しずくは、今度はどこに行くのかな・・・」とそれぞれの思いをめぐらせたり、イメージを広げたりできるように読み聞かせを終える。

■絵本を自分たちでいつでも見えるようにしておく。

■絵本「しずくのぼうけん」の内容と同じような場面に気づいて、友だちに伝えている姿に共感し、一人ひとりのイメージが広がっていくようにかかわっていく。

■生活の中で、しずくを意識して、思ったことを伝えようとする思いを丁寧に受け止め、かかわっていく。

■個々の気づきやイメージした言葉を周りの子どもたちが受けとめ、共感したり、思いを伝え合ったりするように見守る。

【考察】

- ・絵本を読んで以降、絵本と同じような場面に出くわすと、「しずくちゃんここにいたよ。」と友だちと話をし、これまでは気づけなかったり、感じなかったりしたことにも、足を止め、目を向けている姿が見られるようになった。
- ・しずくに思いを寄せ、ぼうけんする様子を自分なりに想像し絵本を見ていくことで、生活や遊びの中での「しずく」との出会いを楽しむ姿につながったと思う。
- ・絵本から広がるイメージの世界を、友だちと共有することで言葉の世界が広がり、会話を楽しむことができたように思う。

【次に向けて】

- ・「しずくちゃんみたいにぼうけんしてみたいな。」と自分なりにイメージしたことを言葉や絵などで様々な表し、遊んでいけるよう進めていきたい。
- ・その他にも、絵本を通しての活動を取り入れ、言葉の世界を楽しみながら、イメージを広げあって遊びを楽しんでいけるようにしていきたい。